

第119回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
125	かわながれそれきながめるみなの上	岡崎市針崎町 西村 美知佳
124	待ちわびる鮮やかな春渡なり	京都市伏見区醍醐 後藤 千鶴子
123	絵のような鞍部の梅拾い足	京都市伏見区醍醐 後藤 千鶴子
122	紅白の梅にぎはしき石山寺	立川市柏町 水野尾 かつし
121	色や香や石山寺の梅つくし	立川市柏町 水野尾 かつし
120	六十年共にあぢはふ花葉漬	高槻市高壇町 四方 よね子
119	蓮摘むほのかに伝ふ日のぬくみ	高槻市高壇町 四方 よね子
118	その中の一羽が空へ花曇	高槻市高壇町 四方 よね子
117	鶯のここよここよと枝揺らす	高槻市高壇町 四方 よね子
116	噂の山のふくれる幻住庵	高槻市高壇町 四方 よね子
115	むらさきの帳りの中に花惜しむ	高槻市高壇町 四方 よね子
114	咲くことは笑ふにあらず花に雨	高槻市高壇町 四方 よね子
113	花の雨水蒼淵る鶯の脚	高槻市高壇町 四方 よね子
112	春の日や睡魔に勝る赤ん坊	大津市柳川一 丸岡 佐代子
111	白葉の真白さ芯に出刃入れる	大津市柳川一 丸岡 佐代子
110	老姉妹昔を語る雛の前	大津市柳川一 丸岡 佐代子
109	老夫婦寄り添ふ歩み山笑ふ	大津市柳川一 丸岡 佐代子
108	水仙の自分を通す葉先まで	大津市柳川一 丸岡 佐代子
107	田起しの農夫と一言立ち話	大津市柳川一 丸岡 佐代子
106	いいにおいおいしそうだおまんじゆ	大津市中庄 橋本 明石
105	年老いた母と歩けり石山寺	東京都日野市 宮田 信吾
104	噂りの中におはすや式部像	茨城県那珂市 松井 節子
103	簾はしる式部の寺や花の屋	茨城県那珂市 松井 節子
102	投げられし言葉飲み込む日永かな	大津市柳川一 丸岡 正男
101	青年の不機嫌な宵に春の月	大津市柳川一 丸岡 正男

第119回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
150	路地裏の時計修理墨梅一輪	東京都中沢二 葛城 巖
149	湖西の日ひぐれ早しちろなく	東京都中沢二 葛城 巖
148	桃の花遠し故郷なお遣し	東京都中沢二 葛城 巖
147	空青し溢れんばかり玉椿	横浜市南区 谷元 博樹
146	春の夜こいみる風子よ何思う	横浜市南区 谷元 博樹
145	絵手紙は石山寺と春の鶯	横浜市南区 谷元 博樹
144	山深く承らふ寺や春深し	横浜市南区 谷元 博樹
143	併して大津三井寺探見て	横浜市南区 谷元 博樹
142	一汁の温きが嬉し春料理	横浜市南区 谷元 博樹
141	たんぽぽの羽を追いつく春休み	横浜市南区 谷元 博樹
140	掃り道草窓に見える春の月	横浜市南区 谷元 博樹
139	壁紙に源氏の絵図や蛭汁	大津市松本二 松田 翔
138	息白し赤青黒のランドセル	大津市松本二 松田 翔
137	独り居は一日ぶつぶつ冬くれる	大津市朝日ヶ丘一 澤木 洋子
136	芽柳を風は気ままにゆらしけり	大津市朝日ヶ丘一 澤木 洋子
135	通学路の文書に子の朝の梅	大津市別保二 田中 文子
134	野遊びの野に傾いてポットの湯	大津市別保二 田中 文子
133	石鹼玉消えて足跡残りをり	大津市別保二 田中 文子
132	春宵や鼓動に光るペンダント	大津市別保二 田中 文子
131	凍星や紫の天の万華鏡	高山市丹生川町 奥田 喜美子
130	春風や古山でひとつくしやみかな	津島市唐臼油田 鈴木 予始子
129	防れし古の寺梅は咲き	津島市唐臼油田 鈴木 予始子
128	寒椿二人寒空石山寺	記名なし
127	梅の香に誘われ式部探しけり	新城市有海 原田 英樹
126	パンダといっしょにおまいりだ	記名なし